

みんなの居場所

真面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、謹、慣用句等々を載せておきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。
会話が広がります。

令和7年10月3日(金)

い時間が長く続いた。アリの憂心が生じ、「(ア)、が発生」やすくなる。その背景に共通するのは、忘れてはならないことではないのか。私も多くの人々を重ねて、改めて振返る。ねむの運動があった。『脚回り』(利口主義)、「頭の中」等々。そして感謝等を忘れている。これがが災いし教師になつて数年は、この運営につた。あの頃、もう少し「真摯さ」「謙虚さ」「感謝の心」を持ち、頑張つていれば、もっとマシな教師になつていたのではないかと思ひ。スキルを上げてこじれたり頗るなれば、「實踐力」(實驗力)、「感謝の心」を忘れてはならない。

「この季節、あたらしいおいで柿の木を見かけますが、柿は私の好物の一つです。果物は何でも好きです。でも、私はじつは柿だけは特別な存在です。じつは、平成7年1月1日、特別な存在になりました。」

私の父の画家は一本の柿の木があり、その木は私の父が子供の頃からあるといつぱり、わざ腰を弱っていもした。父がよく懲らしきべ、その木に縄で縛られてしまつて、話を聞いていました。しかし、祖父が痰気になつて体調が優れなくなつてから、柿があまりなくなつてしまつたのです。平成2年頃からほんの少ししかなつてこなかつた。祖父が最後の入院をしたのは、平成7年1月1日でした。その頃はもう柿の話題よりも、祖父がお風呂に入るときは願うただけでした。祖父も病魔に苦しめて、平成7年1月1日は永眠しました。そして、祖父の出棺の日、棺の上には一つの柿のみとなつてありました。不思議に思つて、叔父に聞こしてみると、「柿のないひつたけぐ、つぶねやこじやつたつたん。」とのことです。不思議なことあるものですね。今までなのなかつた柿がその年にだけたくさんありました。そして、葬儀の際、お坊さんからお話をされたました。「次（私の祖父の死前）ひむし、様が、遺言があるらしいと聞きました。誠実に生きられたんだ」と。この柿を見て、叔父に、神様が下さった勲章のように思えます。私はその話を聞くのが、涙が止まらなかった。それ以来、柿を貰ふと祖父を思いだし、食べる時はじつから味わいながら食べます。秋の味覚、柿。じつは、私はこんな想ひがあります。誰かとおしゃべりをするときはあまりませんが、ちょっとしたきっかけから大切な存在になった物つてありますか？

たまに祖父の墓参りに行くのですが、ついでにやるりした時間が流れてしまうます。私が通された時間はいつもあります。そして、祖父から贈ねられました。「懲らしきべ、してこなかへー」「虫歴しほつてこなかへー」「祖じ進んでこなかへー」「人様のため仕事をしてこなかへー」そして最後に一言「貴重事に謙虚に感謝して頑張つたれど。」

秋は私はじつはみんな季節です。他の人の秋はいいな秋でしょのが、充実させていたのです。

* 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の可・不可）